第 2014-31 号

恵みと真理のニュース

2014 年 8 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］ 全能なる神様は私と息子に 奇跡的な癒しの恵みを与えてくださいました

ハレルヤ！振り替えってみると今まで私と家族を救ってくださり、神様の子供にならせてくださり、守ってくださった神様の愛と恵みに感謝し声高く賛美します。
私は儒教思想で頑固で厳しい性格の親もとで育ちました。幼い頃夢が多くて親の反対にも関わらずただオルガンを習いたい一心で少し田舎にある教会に通いました。しかし、イエス様に対する神霊な知識と心を持っておらず、教会を離れ不信仰の生活をしました。
1971 年に結婚しました。公務員である旦那はソウルの仏教際団を運営する大学出身で頭は仏教思想でいっぱいの人でした。ところが長男が 1 歳になった頃、事情があり仕方なく公務員を辞めなければなりませんでした。旦那は一人っ子で家庭ではこの上なく大事に育てられたので、一般職場ですぐ適応をできませんでした。仕方なく様々な事業に手を出しましたが経験と能力不足で何度も失敗しました。ますます生活が大変になりついに旦那の家族が与えてくれた家までなくなるほどでした。その頃、兄がいきなり交通事故で亡くなりました。義姉がお寺に通っていて私も普段の日のようにお寺に行くためターミナルで高速バスを待っていた私の口から賛美歌が出ました。 “遠く離れて行くと寂しく寂しくてさ迷っています。イエス、イエス、私の主、今私のところに来て共にいてください。どんなに心が苦しんでいたのか子供の頃オルガンを習うため頑張って練習した賛美歌を知らずに偶像崇拝をするため行く道で歌っていました。 “あ！神様は私を愛している。神様のところの教会に戻ろう”と思いましたが決断を下さず、続けてお寺に通い翌年にお寺で重要な役をしている人々から悪い言葉と行動で大きい衝撃を受け、二度とお寺には行かなくなりました。
その頃妹が先にイエス様を受け入れ、真の生活をした妹に伝道され教会に通い始めました。しかし、一つの足は教会へ一つの足は同じく世の中にかけている状態でした。そのような私に大きな試練が来ました。
小さいパン屋さんを運営していましたが、対所で火事が起こってしまい顔や腕や頭に 3 度のやけどを負いました。顔が大きくむくんで黒くこげた様子で個室で入院しました。 “神様、私を助けてください。”切に祈りがでました。医師から“火傷のあとが残るが結婚もしたし、二人の母なので落胆しないように”といわれました。その後、三回かけて手術を受けました。
一ヶ月間入院してから治療を受けたあと、退院をして一ヶ月が過ぎて検査のため病院にいくと医師は私を見て“本当に奇跡です。” “その時の症状を見るとこのように手術がよくできて回復も早いのは不可能な事ですが、切に神様に祈ったから祝福をうけたようですね。”と言いました。
今私が 60 代の後半でその時大きい火傷をしましたが、今の肌は痛みときずを分からないくらいきれいです。
教会を通って時間が過ぎてなかなか信仰が成長しなくて葛藤している時に恵みと真理教会のニュースを読みながら特に御言葉に恵みを受けたのが恵みと真理教会に通うきかけになりました。休まずに礼拝に参加し御言葉と聖霊の恵みで私の信仰が成長しました。
そして全心で主を畏れ主だけを担え礼拝中心で生きる時もう一回神様の奇跡を体験しました。二番目の息子が屋上から落ちて病院で死境をさ迷いとうとう医師から“今日が最後になるかもしれません。”と聞きました。相変わらず旦那は神様を信じなくてやる事、全部あまりできない状況で起こった事故でした。
旦那は息子を愛しかわいがっていました。それで私より旦那がもっと驚いて落胆しました。教会で牧師と伝道士が急いで病院に来てくださり祈ったその日の夜神様の奇跡が息子に望みました。
息子が起きてすぐ正常に回復したのです。頭の中で血管が破れ切れたと言われましたが驚くに息子は大丈夫でした。神様に権能の手で息子を治してくださいました。その後から私は息子と事故と奇跡的な治療が旦那の頑固な心を壊してくださり、旦那を救ってくださる神様の摂理であると信仰の考えをするようになりました。この事を通して旦那が神様の権能を体験して二人の手の前に出たからです。
旦那はこの事件の以後、神様の国の民として祝福なる人生をいきながら感謝と涙の賛美を歌い、私と二人の息子と天国で再び会うその日を待ちながら神様の所に行きました。私がもっと神様に感謝する事は、その後から神様の二人の息子を守ってくださり信実の神様の子供として育ててくださり、時によって高めてくださいました。また、信仰がきれいな妻に出会えるように信仰の家庭を作るようにしてくださいました。
双子の孫が教会学校で賛美する姿を見ると言えないほど楽しくて幸いです。二番目の息子も 2 年前尊い息子を得て私に孫の面倒みる楽しみを与えてくれました。私は息子達のためにしたのは祈りしかないようですが、神様は大きい恵みを与えてくれました。また、神様はその年私に勧士の職分まで与えました。
神様に本当に感謝します。与えて下さる神様の恵みと愛を数えられないです。これから残った人生を日々神様に感謝しながら相変わらず主を愛し健康を下さる限り聖歌隊員と勧士の職分を真面目で忠誠します。不信者達を捜し熱心に福音を伝える生活をします。ハレルヤ！

［信仰コラム］ 真面目に信じる者がなろう

…ドマが答えて私のくださって私の神様です。イエスはこう答えて言われたてあなたは私を見たことを信じるか信じないか、見ずに信じる者は幸福です。（ヨ 20:24~29）

弟子たちがイエスが十字架に釘を刺して殺したユダヤ人を恐れ、エルサレムの一軒に集まっている時、復活したイエスが忽然と、彼らに復活したイエスの列を信じさせてくれました。すると、弟子たちは喜びがいっぱいになりました。
ところが、弟子たちがその席にいなかったドマに″私たちが神様を見た。″して彼らが体験したことを言うと、″私が神様の手にある釘の跡を見て、僕の指を穴に入れたり、私の手を神様の横腹に入れてみなくては信じない。″しました。
本文にはこのようなドマが復活したイエスを直接会った後、その態度の変化がイエスを向けて彼がどのような信頼を話しているのか見せてもらいました。そしてうわの空で信じる者がならず真面目に信じる者がなれという話です。無駄な信頼は救いを得ることができません。真に信じなければなりません。
弟子たちが先週、日曜日に集まったその家に再び集まりました。今回はまたドマも一緒にいました。また、忽然と、彼らの真ん中にイエスが来てくれてドマに″きみの指をこちらに出して私の手を見て、あなたの手を出して私のわき腹に入れて見なさい、そした信頼のない者がならず信じる者がなれ!″しました。
ドマは自分の前にいた神様にお目にかかって自分におっしゃるお話を聞きました。すべての疑いがあっという間に消えました。心霊が畏敬心に満ちたドマは、イエスを向かって″私の神様で、私の神様です。″と言いました。
イエスを’私の神様’と呼ぶ人は実際に、イエスを神様に仕えなければなりません。自己中心の生活で、イエスの中心の生活に変換しなければなりません。自己中心の主張と我執と欲を断固として十字架に釘を刺しように処理しなければなりません。私に今すぐでは損となって苦痛になるしても、神様の栄光が現われるようになって嬉しいようにできるならその道を選ぶことができなければなりません。私の考えが神のおぼしめしに一致しなければ私の考えが拒否されることを希望します。最善を尽くして結果は全能の手で摂理している主に預けなければなりません。
幾多の人たちがドマのように自分が直接に神様をお目にかかることを欲しいです。神様が私が願った奇跡を見せてくれれば、さらに強固な信頼を持つようになるだろうと話します。しかし、必ずしもそうではありません。昔のエジプトから解放され、カナーンへ行ったイスラエルの民ほど多くの移動を体験した人たちはないと言っても過言ではないです。それでもその中に神様を信頼し、神様の約束を信じてカナンに入った人はエジプトから出る時に 20 歳以上になれた人の中で、ヨシュアとガルレプ、二人だけでした。ところが、ヨリゴ誠の芸者、ラハプはイスラエルの民が経験したことのような記事と移籍を見ておらず、聞くだけしたにもかかわらず、神様を信じ、神様の約束を信じました。
芸者 ラハプは神の権能と真実を直接に’体験したことがないにもかかわらず危険を冒して生命をかけて信じました。噂を聞いて信じました。″あなたは私を見たことを信じるか信じないか、見ずに信じる者は幸福です。″したイエスのお話どおりに 芸者 ラハプは見ずに信じる者、乾性がなく、真面目に信じる者、行うことがある信念を持つ者として大きな福を受けました.
彼はダビデ王の祖母になりました。
聖書に記録されたお言葉によって、イエスを信じる人が恵まれた人です。聖書を読んで聖霊の引渡しを受けて、イエスを信じる人は直接見ないでも信じて喜んでいます。聖書に根拠して信じる人が真面目に信じる人です。
「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

イエスキリスト再臨のしるし(2)

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

去る二つの週間にわたってイエス様の初臨と再臨が私たちの人生たちにどんな意味があるかを調べました．そして再臨のしるしに対してイエスキリストが親しくおっしゃったお話が記録された　マタイによる福音書,24 章の 1 節から 35 節までをよく見ました．今日はその次いで記録された 36 節以下に予言された再臨のしるしに関してよく見ます．

先に、36 節に記録された予言をよく見ます．

“その日、その時は、だれも知らない。天の御使たちも、また子も知らない、ただ父だけが知っておられる。” ここでその日とその時はイエス様が再臨なさるその日と時刻を示します．再臨のしるしを察すればイエス様の再臨が近付いたことが分かります．しかしその日とその時刻はわからないです．イエスキリストが親しくこんなに確かにおっしゃったのにイエス様の再臨の日を啓示して与えられたと惑う者等が歴史上に限りなく現われています．西紀 999 年ヨーロパでは新しい千年を目の前に置いて終末になったという考えがはびこられました．そして 12 月 31 日に幾多の人々が高い山に上がってイエス様の再臨を待ったことが起りました．19 世紀アメリカでも終末予言が盛んでした．エホバ証人の創始者チャールズ　ラッセルは 1874 年をイエス様の再臨の年と予言したが違うようになって 1914 年にミレニアムが始まったから繰り合わせました．我が国もイエス様の再臨の日を予言した偽り予言者たちがたくさんあります．ダミー宣教会は 1992 年 10 月 28 日に限定する時限付き終末を言いふらして教会と社会を大きく乱れているようにしました．
天使たちも分からないという言葉は理解するのに難しくないが，イエス様も分からないという言葉はいぶかしくここは方々がいるでしょう．イエス様は神聖を持った神様だがこの世の中にいらっしゃる間はあがない使役を成すために人性を持った人でもありました．だから人性の側面では分からないという言葉です．これは人々が神霊なふりをしてその日とその時が分かると言うことはまるで自分がイエス様よりもっと卓越な者と主張することに違いないということを現わしてくれます．聖書にその日と時刻は誰も分からないと言ったので私たちは分からないと言わなければなりません．

次は、37 節から 39 節まで記録された予言をよく見ます．

**“人の子の現れるのも、ちょうどノアの時のようであろう。すなわち、洪水の出る前、ノアが箱舟にはいる日まで、人々は食い、飲み、めとり、とつぎなどしていた。
そして洪水が襲ってきて、いっさいのものをさらって行くまで、彼らは気がつかなかった。人の子の現れるのも、そのようであろう。”**

イエス様の再臨の日と時刻は誰も分からないと断定的におっしゃったがイエス様の再臨の時期が近いことを分かるようにするしるしたちに対しては非常に多様におっしゃいました．ノア時代やロトの時代と類似の生活状態が再演されるとおっしゃいました．　ルカによる福音書にはこんなに記録されました．**“そして、ノアの時にあったように、人の子の時にも同様なことが起るであろう。ノアが箱舟にはいる日まで、人々は食い、飲み、めとり、とつぎなどしていたが、そこへ洪水が襲ってきて、彼らをことごとく滅ぼした。ロトの時にも同じようなことが起った。人々は食い、飲み、買い、売り、植え、建てなどしていたが、ロトがソドムから出て行った日に、天から火と硫黄とが降ってきて、彼らをことごとく滅ぼした。人の子が現れる日も、ちょうどそれと同様であろう。”（ルカによる福音書 17:26-30)．**
“人々は食い、飲み、買い、売り、植え、建てなどしていたが”と言いました．このようなことはどの時代でも人が住む社会の日常的生活に属したのです．ところで詳らかによく見ればこのようなことを指摘した理由が分かります．第一は，礼拝がない生活です．終末の時代になれば人々の欲求を起こす食べ物の種類と商品の種類がおびただしく多くて食べて飲む事ともっと新しくて便利な品物を売買する事に忙しくなります．新しい都市たちが絶えずできて巨大なビルたちを競争的に建築しようとして忙しくなります．結婚してお嫁になると言ったが重ねて結婚してお嫁になる風潮が暗示されています．なによりもこのすべてのことが暗示することはその中に神様を向けた礼拝がないという事実です．人々はそういう事に所用されるお金をもうけるために忙しくて礼拝する時間を出すことができなくなります．二番目は，人々が日常生活にだけ沒頭して神様の警告には全然関心がないというのです．ノア時代人々は洪水になる前まで彼らを滅亡させる審判の洪水が臨むという言葉を全然信じなかったです．ロトが暮したソドムとゴモラ地域人々も同じでした．彼らが滅亡したことは神様の警告を聞くことができなくてはなく聞いてからも無関心だったし信じなかったからです．
今日私たちはイスラエルに対する聖書の予言を詳らかに察しなければなりません.イスラエルはイエス様の初臨と再臨そして歴史の終末を知らせてくれる人類歴史の時計みたいな役目をします．イスラエルが信仰の純純性を忘れてしまうとローマの支配を受けるようになりました．ローマの支配から独立しようとするイスラエルの抵抗勢力を押えるためにローマ軍隊がエルサレムを攻撃しました．ローマのデートス将軍によってエルサレム聖殿が破壊されたしイスラエル民族は全世界でばらばらと散らばりました．彼らは国ない民族になってしまいました．それから 1900 余年の歳月が経ちました．このようになってみたらユダヤ人たちが彼らの先祖が住んだ地に帰って来てまた国を建てるということは想像もできなくなりました．それでも神様は自分が選んだアブラハムの子孫たちをとても捨てないです．神様が予言者エゼキエルを通じて次のように予言するようにしました．**“主なる神はこう言われる、わたしがイスラエルの家の者を、その散らされたもろもろの民の中から集め、もろもろの国民の目の前で、彼らにわたしの聖なることをあらわす時、彼らはわたしが、わがしもべヤコブに与えた地に住むようになる。”(エゼキエル書，28:25)．**
イエス様の再臨がある前にイスラエル国に関する三種類の要件が成り立つとか成熟されなければなりません．第一，イスラエル国家がパレスチナに立てられるのです．第二，エルサレムと昔の聖地を完全に占領するのです．
第三，昔の聖殿ところに聖殿を再建するのです．ところでその中に二つがもう成り立ちました．1890 年ハンガリ生まれユダヤ人，デオドルヘルズルの胸の中にユダヤ国を建てなくてはいけないと言う強烈な願いの炎が起きました．彼はこの希望をユダヤ人たちの胸の中に火点しさせ始めました．そしてシオンに帰ろうというシオニズム運動を起こしました．しかし当時ユダヤ人たちは彼の活動に何らの関心を傾けなかったです．何故ならばユダヤ人たちはヨーロパとアメリカで裕福によく暮らしたからです．
第 1 次世界大戦の中にハイムバイツマン(Haim A Weizmann) 博士が火薬製造で大きい功を立てるとイギリス首相ロイドジョージがハイムバイツマンに願いを問いました．バイツマンはユダヤ人たちにパレスチナ地をくれると言ってしました．その頃パレスチナはイギリスの委任統治の下にあったから 1917 年にイギリスは “バルポア宣言(Balfour Declaration)” を通じてユダヤ人たちにパレスチナに帰って定着することを承諾してくれました．1922 年から 1939 年まで約 30 万名のユダヤ人たちが彼らの昔の地で移住して来ました．しかしヨーロパの中部地域に住んでいた大部分のユダヤ人たちは昔のご先祖の地に帰るのをはばかりました．ところで第 2 次世界大戦が勃発するとユダヤ人たちが言えなく極甚なさげすみと苦痛にあうようになりました．それによって世界各所で 200 万人以上のユダヤ人たちがパレスチナに帰って来たし 1948 年 5 月 14 日に国連の承認の下イスラエル国家が誕生しました．イスラエルは独立戦争を含めて 1956 年スエズ戦争，1967 年中東戦争，1973 年の第 4 次中東戦争で勝ちっ放しをおさめました．1967 年中東戦争時には 300 万だけもならない人口を持ったイスラエルが 11 億人口を持った 14 個アラブ国家と争いました．イスラエル正規軍は 7 万名，予備軍 23 万人だけだったがただ 6 日間に勝利をおさめて “カザ地域” を含めてティーラン海峡，エルサレム，ヨルダンの西の方の地域，シリアの国境の高地そしてスエズ運河に至るまで国境を広げたし中東の強者で君臨するようになりました．
もう残った事は聖殿が再建される事です．このため募金運動が展開されて聖殿債券が世界諸所で売れて多くのお金がイスラエル政府に入って来ました．そして聖殿を作りのための万般の準備が用意されています．イエスキリストが親しくおっしゃいました．**“イエスは彼らに言われた、「あなたがたは夕方になると、『空がまっかだから、晴だ』と言い、また明け方には『空が曇ってまっかだから、きょうは荒れだ』と言う。あなたがたは空の模様を見分けることを知りながら、時のしるしを見分けることができないのか。”（マタイによる福音書，16:2,3)．**

聖徒の皆さんは時代の標的を注意深く察しながら生きて行ってください．そして私たちの主イエスキリストの再臨が近いことを悟って心に期待感と所望が一杯になるように願いします．